

## わかりやすく, テンポよく伝えるには

第1469回放送用語委員会が、12月1日に福岡放送局で開かれた。外部委員として、エッセイスト、翻訳家の青木奈緒氏と久留米大学附設中学校・高等学校長で言語学者の町田健氏が出席した。NHK側からは、福岡、北九州、熊本、長崎、鹿児島、宮崎、大分、佐賀、沖縄の各局が参加した。当日の議論を報告する。

### ◎ 接続表現について

ニュースではよく使われる言い回しだが、話しことばとしてはあまり耳にしない接続表現に関して、文法的に間違いではないものの、伝わりやすさという点で委員から指摘があった。

赤字が続く地方鉄道を巡って、そのあり方を検討する協議会を国が設置できるようにする法律が、来月施行されます。

ニュースがいきなり「～を巡って」という文章で始まるのは視聴者に唐突な感じを与える。また「巡って」には「さまざまあるものの中の1つ」という含意があるため、何について言及するのか、焦点を絞った表現にしたほうがよいという意見が出た。

#### (言いかえ案)

- ⇒地方鉄道は苦しい経営が続いていますが
- ⇒赤字が続く地方鉄道について

開業から間もなく1年となる中、老舗の温泉旅館ではその効果を実感しています。

「～中」は接続助詞として多用される傾向があるが、何を意味するかがあいまいになりがちである。また出席した委員からは、「1年となる」のは“瞬間”で、それに対し「中」は一定程度の持続時間を必要とする表現のため、やや矛盾を感じるので「1年となる中」よりも、「1年となりますが」などにしたほ

うがよいのではないかと、という意見が出た。

### ◎ 省略表現について

前後の文脈から自明である、あるいは全体のコメントの流れから不要であると判断して、文章の一部を省略することについて委員から指摘があった。

- ①しかし今年のコメにはある異変が。品質が低下しているといえます。
- ②新幹線の開業や全国旅行支援などの影響で人出は増加。地元の観光協会などには、観光客から「タクシーがつかまらない」といった声が寄せられるようになりました。

①は直後に異変の内容を説明する文章が続くため、省略しても視聴者に意味は伝わるが、「起きています」という述部があったほうがより理解しやすくなる。

②も「しつづつあります」という述部があったほうが時間や様態が伝わるので親切だという意見が出た。体言止めは「簡潔な表現ができる」効果がある一方、「聞き手の理解に負担をかける」ことが過去の委員会でも指摘されている<sup>注)</sup>。

出席者からは、文法的に正確な日本語を使うことは大前提だが、述部があるとコメントのリズムやテンポを阻害するデメリットもあり、述部を省略することで次の一文に注意が傾くようにする効果もあるのではないかと意見もあった。

### ◎ あいまいな表現について

- ①ふくおかフィナンシャルグループは再来年の1月から1,320円の手数料を導入することになりました。
- ②スタジオには取材に当たっている経済担当の〇〇記者です。

①については、自然と「手数料を導入することになる」わけではないので「しました」が妥当である。

②については、「スタジオには〇〇記者が来ています」という言い方も可能である。委員からは日本語全般の変化として、「名詞+です」という短縮表現が広く見られるという指摘があり、行為の主体をあいまいにする傾向につながることに懸念が示された。

### ◎ 何ということばで表現するか

本来の意味では必ずしも適切な表現ではないが、視聴者の関心を引こうとする場合や、さまざまな事情や制約がある場合に、結果として視聴者にとって伝わりにくい表現が用いられることがある。

新幹線の経済効果などを研究している専門家は、業種によって明暗が出ている現状について、「開業効果は地域にまんべんなく行き渡るわけではない」と指摘します。

西九州新幹線が開業したことで観光客が増加し、その恩恵を受けることができたホテル業界と、人手不足により思ったように恩恵を受けられていないタクシー業界の差を伝えたりレポートで、両者の対比を表すのに「明暗」という表現が使われた。しかし、タクシー業界もその程度が思ったほどではないにしても、新幹線開業による恩恵を受けており、「暗」という表現が妥当なのか、疑問が呈された。

「明暗」は対比を際立たせるには適した表現だが、今回については「差」や「違い」などの表現を検討してもよかったのではないかという意見が出た。

これだけの施設を作ったその熱量、そしてデジタル人材をつくっていききたいという思いってのはどこから来てるんですか。

楽しみながらデジタル技術を学べる施設がオープンしたことを伝える中継で、施設代表の思いを伝える際、アナウンサーが「熱量」という表現を用いた。

「熱量」はもともとエネルギーやカロリーの量を意味するが、近年では「熱い思い」という意味で使われる。辞典の中にはその意味を載せているものもあるが、比較的新しい用法であることを理解したう

えで使ったほうがよいという意見が出た。

赤字が続く地方鉄道を巡って、そのあり方を検討する協議会を国が設置できるようにする法律が、来月施行されます。JR九州が(中略)公表したところ、10の路線の合わせて12区間が協議会の設置を優先するとした国の基準を下回ったことがわかりました。

便数の減少やバスへの切り替えなど、沿線利用者にとっては不利益につながりかねない協議会の設置を説明する際に、「優先する」という表現はポジティブな印象を与えてしまうという指摘があった。また「優先する」はあくまでも国の立場での表現であり、視聴者の立場からいえば「設置が求められる」などに言いかえたほうが、伝わりやすかったのではないかという指摘があった。

逆に「基準を下回った」の部分については、国の考え方でいえば「基準を満たす」という表現もありえたが、「満たす」だとポジティブな印象を与えるので、今回の説明としては「下回った」にしたことで視聴者に伝わりやすく、わかりやすい表現だという意見も出た。

“国”なのか“視聴者”なのか、どちらの立場から原稿を書くかで表現は変わる。同じ問題を扱う場合でも、国の方針や決定を報じるいわゆる全国向けニュースと、より視聴者に寄り添った報道が求められる地域放送では、その伝え方に微妙な違いが出る。人口減少や高齢化などにより、さまざまな問題にいち早く直面する地域においては、全国向けニュースの報じ方を一律に当てはめるだけではなく、それとは異なる表現も時には検討する必要があることが示唆された。

高橋浩一郎(たかはし こういちろう)

注) 第1462回放送用語委員会(大阪, 2022年11月18日)『放送研究と調査』73-3

### 第1469回放送用語委員会(福岡)

【開催日】2023年12月1日(金)

【出席者】青木奈緒氏、町田健氏、  
藤森 一 福岡放送局コンテンツセンター長、  
渡辺健策 放送文化研究所長ほか